

安東会長記者会見要旨

日 時：平成 20 年 4 月 15 日（火）午後 4 時 30 分～午後 5 時 15 分

場 所：J A S D A Q プラザ記者会見場

出席者：安東会長、渡辺副会長、増井副会長

冒頭、渡辺副会長から、金融庁「証券会社の市場仲介機能等に関する懇談会論点整理」への本協会の対応状況をはじめとする自主規制会議の審議事項等の概要について、増井副会長から、「今後の金融・資本市場のあり方を考える懇談会」中間報告に対する本協会の取組状況をはじめとする証券戦略会議及び理事会の審議事項等の概要について、それぞれ説明が行われた後、大要次のとおり質疑応答が行われた。

（記者）

2つ質問する。一つは4月8日の理事会でジャスダック株を大証に売却する決定がされたが、これを受け、大証との交渉の現状と今後のスケジュール感について教えていただきたい。

（安東会長）

ご承知のとおり3月31日に特別委員会、4月8日に理事会を開催し、その内容については皆様の手元に既に渡っているとおりで、この決定が証券界の総意ということである。今後、当然のことながら具体的な売却株数、あるいは価格等詰めていく問題はまだ残されている。従って、スケジュール的には当初考えていたよりも若干遅れぎみにならざるを得ないというところである。

（記者）

もう一つは、本日、人事推薦合同委員会が開催され、安東会長の3期目について議論されたと伺っているが、これについてご説明いただきたい。

（安東会長）

本日、人事推薦合同委員会が開催され、終了後に代表の方より同委員会の総意として7月以降も私に会長を続投するようという要請があった。もちろん、会長は6月19日の定時総会で正式に決定されると

ということになるわけだが、私の個人的な考えとしては、当初からこういった職については一人が長期に亘ってやるべきことではないのだろうと考えている。しかし、現在与えられた役割あるいは今後この責任を全うしていく意味で、先ほど両副会長から本協会の取組みについてかなり多岐に亘って報告があったが、それらを踏まえ、よりスピード感をもって問題解決に臨んでまいりたいと思っている。

(記者)

3点ほど伺いたい。ジャスダック株式の件で、ジャスダックの取締役会から事実上売却に反対するような意見書が出されており、また、株式の譲渡制限もあり、今後、調整が難航することも予想されるが、どのように説得、対応されていくのか伺いたい。

(安東会長)

既に3月24日のジャスダック取締役会において、今ご指摘のあったようなことが決定されている。私としては、今進めなくてはいけないことと、それを進めるに当たっての障害となっているものがあるので、議論を重ねるといふか、対話を重ねるといふ方向で解決に当たっていきたいと思っている。

(記者)

ジャスダックの経営陣との対話ということか。

(安東会長)

直接的に私がジャスダックの取締役ひとり一人に話をするようなことはないと思うが、社長とはいろんな意味で会話をしつつ解決に当たりたいと思っている。

(記者)

非公式な話ではあるが、大証がジャスダックの頑なな対応について、買収を取り下げるといふ可能性もあるかと思うが、そうした懸念はないのか。

(安東会長)

懸念が全くないと言えればそんなことはない。なぜならば大証が唯一の買い手ということで、交渉というのはその間にいろんなケースが生まれ

る。大証にしても全員が同じ方向を向いているわけではない。組織というのは全てそうで、それがあある意味での組織の活性化に繋がるのだということを以前にも申し上げた。ただ、少なくとも私と大証のトップの間では、そういった話は一切ないので、そういう声が世の中の流れを変えるようにはならないだろうと思っている。

(記者)

今回の特別委員会あるいは理事会で方針が決まったわけだが、今年の協議入り以降、日証協の会員や理事の方から説明がよく分からないまま進んでいるという指摘もあるようだが、この3ヶ月間の経過について説明不足といった問題点があったという認識はあるのか。

(安東会長)

それはひとえに私の問題ではなかろうかと思う。報道等による影響も大きいのかもしれないが、例えば売却ありきみたいな捉え方をされた。

元々、今後の新興市場をどうしたらよいのだろうということを念頭において今回の話は進めてきた。取引所として健全な経営の中で公益性を担保しつつ、例えばユーザーに対して責任のある対応ができるという意味で、大証の米田社長とも共有しているが、今後、新興市場のあり方を考える委員会というものを作って、投資家の代表である機関投資家、ユーザーの代表である証券会社、発行体、あるいは取引所の専門家、有識者といったような方を交えて、新興市場のあり方について検討していきたいと考えている。日本においては、新興市場は今後とも極めて重要な位置を占めることは間違いないと確信しており、インフラとしての市場が投資家にとっても発行体にとっても使い勝手のよい、かつ効率的なものを目指しているわけである。

このようなことを私は当初から説明しているのだが、なかなか伝わりにくく、そういうことに対してやや説明が不足したのではないかと反省はしている。

(記者)

会長人事の件について、引き続きおやりになるという理解でよいのか。

(安東会長)

総会で承認を受ければ、引き続きやる予定である。

(記者)

ジャスダックの件で、3月24日にシステム統合についてジャスダック経営陣が拒否し、31日の特別委員会と4月8日の理事会で決定されたわけだが、逆に言うと急がないといけない理由があるのか。ジャスダック側が納得してから進めてもいいように思うが、何かスケジュール面で急ぐ理由があるのなら教えていただきたい。また、先月もお伺いしたが売却したとして、その資金使途は明確になってきたのか。

(安東会長)

3月24日にいきなりシステム一本化に対する基本合意が出てきたわけではない。システムに関して言えば既にジャスダックで1月から臨時取締役会も含めて8回も開かれているわけであり、その間にジャスダックのCIOと大証のCIOが大証のシステムを使うことによる問題点を詰めた結果、システム担当者においては何の問題もないことははっきりした。やはりシステムで一番怖いのは何といてもトラブルや顧客の利便性が損なわれることであるが、それは全くないという結論を得たので、基本合意書について承認をいただけるのではないかなと思っていた。しかし、合意書の中身に若干不備があるということで否認された。現在、不備な部分について修正している最中である。

具体的な資金使途については、まだ話題になっているわけではない。それは売却が決定してからきちんと考えていきたいと思っている。

(記者)

協会として売却を急ぐ理由があるのか。

(安東会長)

いつまでに売らなくてはいけないという意味でのプレッシャーは全くない。ただ、何よりも新興市場のあり方というものを考えるためには早く決まらないといけない。マーケットが非常に低迷しており、特に新興市場については売買代金が激減している中で、投資家からの信頼回復ということも含め、きちんと議論していくためには早い方が良いだろうということである。

(記者)

ジャスダックの件で、障害があって乗り越えなければいけないとのこ

とであるが、障害とは具体的にどういうものか。また、それは乗り越えられる障害なのか教えていただきたい。

(安東会長)

具体的な障害とは先程申し上げたように、システムについて固まっていないところや、あるいは株式の譲渡制限、デュエリジェンスが早めに執行できていない点などがある。それらについては時間が解決していくと思っている。

(記者)

ジャスダックの件で、伝えられている情報によるとジャスダック側は新しいシステムを作る決定をし、新たに7億円を費やしたようであるが、それに関してどのように考えているのか。

また、日銀総裁に期待することは何か。

(安東会長)

7億円の追加投資については、3月24日のジャスダック取締役会でシステムの一本化が決定されなかった時点で決まっている。システムの一本化が確定していない以上、一方だけに頼るわけにはいかないということではないか。決定次第、一本にするという話である。

日銀総裁については、前回も申し上げたが、とにかく決まって良かったと思っている。

(記者)

大株主としてジャスダックの取締役を解任する権限があるが、ジャスダックがシステムの一本化交渉に前向きにならなかつたり、大証との協議が成就しなかった場合に、その株主の権利を行使する考えはあるのか。

(安東会長)

特別委員会などでも今言われたようなご意見が出ているが、私は平和主義者であり、大人同士なので、対話というものがあり、落としどころもあると思っている。しかしながら最終的には時間が解決するものと思っている。

(記者)

本日配られた「金融商品取引法」対応状況調査結果について、顧客の

反応として良い反応も 7.6% あったようだが、顧客からの不満も 20.5% に達していたり、全体として不満が多いような結果に思えるが、金商法の施行から 6 ヶ月経ち、顧客への対応についてどのように考えているのか伺いたい。

(安東会長)

特に特別会員において多かったようである。特別会員が元々フローの商品を扱っていなかったなので、顧客からしてみれば、属性として自身の資産状況など聞かれたくないところまで聞かれる、あるいはそれに伴う説明時間の長さもあったようであるが、徐々に改善されてきていると聞いている。

(記者)

ジャスダックは 4 月 28 日に取締役会を予定しているが、先ほどシステム統合の基本合意書の修正作業中という話であったが、28 日の取締役会で合意について決議することを期待しているのか。また否決された場合、時間が解決するというので引き続き待つのか、何らかの対応を考えているのか教えていただきたい。

(安東会長)

4 月 28 日はジャスダックの決算役員会であり、そこにシステム統合に係る議案をかけるかどうかは、先程申し上げたとおり、3 月 24 日に否認されたシステムの合意書の中身等々がきちんとしたものになっていれば出すのだろうし、そこが詰まっていなければ出すには至らないということではないか。

(記者)

そこがひとつの目途と考えているのか。

(安東会長)

目途になるかどうかはわからない。単なる 1 日だと思う。

(記者)

合意書の中身に不備があったということであるが、具体的にはどのような部分なのか教えていただきたい。

(安東会長)

システムに係わる根幹の部分においては、両取引所のシステムの専門家が問題ないと言っているのは事実であり、おそらく合意に足る文章なのかどうかということではないかと思う。表現の仕方というものがあり、例えば、金額の部分について、システムの場合はきっちりとした金額は出てこないののでそうした表現の仕方や過去に遡る相手との感情など、いろいろなものが含まれているのだと思う。

(記者)

それらが全て整えば丸く収まるということか。

(安東会長)

それを期待している。

以 上